

## スズメの育雛

○内堀 杏子  
(横浜市立金沢動物園)

「野生傷病鳥獣保護事業」での金沢動物園の鳥類の保護は例年約 300 点である。そのうちスズメの保護は、年約 40 点と種類別で見ると多い。しかし、その放野率は他の種類の巢内ヒナと比べると低く推移していた。その原因が成長不良であると考え、全体的な餌の見直しを図ることにした。昆虫食から穀物が原材料のフォーミュラに餌を切り替える時期の精査、餌へのカルシウム添加などの工夫を行った結果、放野率の改善へとつながった。

今後の課題としては、あわ玉フォーミュラの硬さについても注意することがあげられる。赤ちゃんのほっぺたくらいの固さだと、育ての親へのセッティングが楽で、スピーディーに作業ができるという利点がある。しかし、消化が早く頻繁に給餌しないとカロリーが足りず、体重が伸びなくなる。逆に、水分量を減らして、指で押してもへこみが少ない硬さで作ると、体重の伸びは安定し、消化が遅いため差し餌の回数は減る。しかし、食滞を起こす可能性が高まり、育ての親へのセッティングにも前者の倍以上の時間を要することになる。

今回、スズメの育雛にフォーカスを当てることによって、「スズメの育雛マニュアル」を作成することができた。今後の担当者のために種類ごとのマニュアル作成に励んでいきたい。